



花のリレーを楽しもう♪

～東海上の花彩島～

繰り返す噴火による荒地や島ならではの強い潮風にも負けないたくましい植物が、春夏秋冬、島を彩ります。



〈発行〉
伊豆大島ジオパーク推進委員会
事務局 / 〒100-0101 東京都大島町元町1丁目1-14
大島町観光ジオパーク推進係
TEL: 04992-2-1446
E-Mail: c010601@town.tokyo-oshima.lg.jp
2023年4月版



A ジオステーションおかた:港

岡田港に寄いたら
まず立ち寄ろう!

船客待合所2階で伊豆大島ジオパークの基本情報・最新情報が入手できます。岡田港到着の際はこれから巡る場所の確認、お帰りの際は次回来島の計画づくりにご活用ください!
【開館】当日の出航港が岡田港の日の最終便の出航まで(船の運航時刻により変動あり)



① 赤禿 (あかつばげ)

マグマが上空に勢よく噴き上がり、火口の周りに急速に降り積もる噴火が起こった跡です。マグマの粒がまだ高温のうちに空気に触れたため、酸化して赤さび色になりました。このときできた小さな火山の形はやがて波に削られていき、現在は海を望む絶好の展望所となっています。

海に突き出た
赤い丘



② 長根 (ながね)

1338年、山腹で起きた割れ目噴火の溶岩流が沢を下り、元町地区の低い土地を埋め立てながら海まで流れ込みました。当時は今より100メートルほど先で陸地が続いていましたが、周囲のもろい地面が波に削られ海岸線が後退し、硬い溶岩だけが碑として残りました。

天然の棧橋?



③ 元町浜の湯 ほか

1986年の噴火によって、元町地区の地下水がマグマの熱で温められて温泉になりました。浜の湯では、伊豆半島に沈む夕日が空と海を茜色に染める光景を、露天風呂に入りながら眺めることができます。地下水を利用していた中学校の屋外プールも温水になりました!

火山でほろり♪



B 伊豆大島 火山博物館

火山
あつめました!

伊豆大島火山はもちろん、日本や世界の火山を紹介しています。伊豆大島ジオパークのヒミツと魅力が楽しめる大迫力の4K映像も上映中です。
【開館】9:00～17:00/年中無休(年11日間の臨時休館日あり)
【料金】一般500円、小中学生250円



④ 地層大切断面

巨大
バウムクーヘン



約2万年間に繰り返し起こった大噴火、約100回分の噴出物が巨大な模様をつくりあげました! この地層は1953年、道路建設工事のため山を削ったときに発見されたものです。もともと起伏のある地形に沿って噴出物が降り積もったため、大きく波打つ地層ができました。島の噴火の歴史を物語る、まさに島の履歴書です。

⑤ 砂の浜 (さのはま)

ふかふかの
ブラックビーチ

沢を流れ下った火山灰や火山砂、砕けて細くなった溶岩が集まってできた黒い砂浜です。黒い色が熱を吸収するため、夏に裸足で歩くと火傷しそうな熱さです。この浜には毎年ウミガメが産卵に上がってきますが、地中の温度が高いため、卵がかかる日数も南の浜より早いそうです。



凡例

トイレ
Toilet

神社
Shrine

ガソリンスタンド
Gas Station

駐車場
Parking

温泉(日帰り入浴施設)
Hot Spring

車両進入禁止
No Entry for Vehicles

国際優秀つばき園
International Camellia Garden of Excellence

国立公園特別保護地区

伊豆大島は「富士箱根伊豆国立公園」に指定されており、自然公園法で守られています。豊かな自然や希少な資源を大切にしながらお楽しみください。

※国立公園・特別保護地区内では、以下の行為が自然公園法で禁止されています



車両の進入



岩石・動植物などの採取・持ち出し

大島ジオパーク外周エリアマップ

IZUOSHIMA Coastline Area MAP



6 イマサキ

スリル満点の崖

マグマと海水が触れて起きた爆発的な噴火で丘ができ、やがて丘のふもとが波で削られ、切り立った崖となりました。崖には大小さまざまな石がたくさん挟まっていることから、激しい噴火だったことがわかります。海に囲まれた火山島では、火山と水のせめぎ合いが常に進行中です。



7 トウシキのボムサッグ

座布団を敷いた石

火山灰が降り積もった地面に、激しい噴火で飛んできた石が衝突してめり込んだ跡が残っています。その凹みの形状から、これらの噴石は、波浮港の火口ができた噴火のときに、500メートルほど離れたこの海岸まで飛んできたものと考えられています(※一部、崩落が進んでいます)。



8 波浮港 (はぶみなと)

火口が港に大変身!



9世紀初めの噴火で開いた火口が水がたまり、火口湖ができました。江戸時代、元禄地震の大津波で火口の縁が崩れて海とつながり、その後、残っていた大岩を人々が砕いて取り除き、1800年に「波浮港」として開港しました。切り立つ崖に周囲を守られているため、風待ち港としてたくさんの漁船が寄港し、昭和の半ば頃までおいに栄えました。また、穏やかで美しいこの港町に保養や執筆で多くの歌人や作家たちが訪れ、大島をテーマにした作品を残しました。

9 カキハラ磯

噴石を載せた奇妙な塔

マグマと海水が接触した激しい噴火によって飛んできた噴石がふしぎな光景をつくりました。周辺の地面には「火山豆石」がたくさん見つかります。水分を多く含んだ噴煙の中で小さな岩片が核となり、周りに細かい火山灰がくっついて丸いカタマリになったものです。



10 筆島 (ふでしま)

火山は残った

伊豆大島の誕生前、数十万年前までここで活動していた古い火山の名残です。火山活動を終えた島はやがて波に削られ、マグマの通り道で固まった硬い岩が海に取り残されました。筆島の向かいの崖に見える灰色のスジは、マグマが大地を割り入った跡(岩脈)です。



11 桜株 (さくらつかぶ)

オオシマザクラは800歳!?

溶岩はときどき、地面の高まりに生えている植物たちを残して、その周りを流れていきます。約500年前、そのようにして溶岩に残ったサクラの巨木は、かつて航海の目印でした。800歳を超えた今も森の中にたたずみ、毎年春にはみごとな花を咲かせています。



12 大島公園 動物園

動物園の岩山も溶岩

江戸時代の大噴火で三原山から海まで流れた溶岩地帯につくられた、自然地形を活かした動物園です。冷えなかった溶岩が、後から流れてきた溶岩に押されて盛り上がり、できた岩山は、もともと岩の多い山地で暮らしていたパリーシープたちの素敵な住処となっています。



おすすめモデルコース

トレッキングで体験！

- Trekking Course -

Course

01 三原山お鉢巡りコース



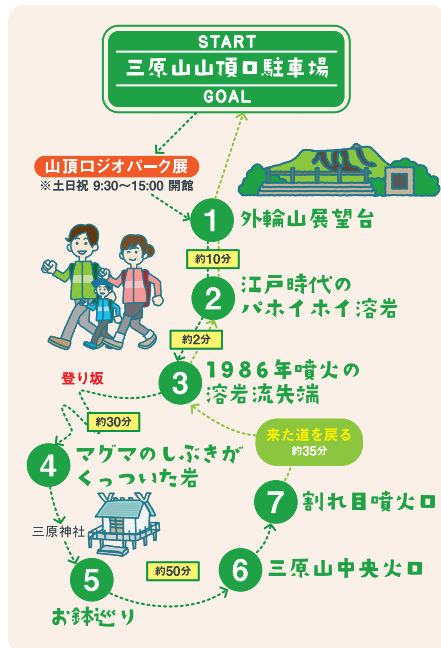
体力 ★★



目安時間 約2時間40分

ガイド付きの場合:
3時間30分～4時間

カルデラ内にあふれ出た、生き生きとした溶岩流を間近に体験しながら三原山を登り、荒々しい噴火口や伊豆諸島・伊豆半島・富士山などの火山仲間を眺望できる、火山満喫コースです。生きている地球の息吹と体温が感じられます。



02 三原山&裏砂漠フルコース



体力 ★★★



目安時間 約3時間20分

ガイド付きの場合:5～6時間

三原山お鉢巡りから裏砂漠に立ち寄り、温泉ホテルまで歩くタフなコースです。裏砂漠体験のほか、1986年割れ目噴火がつくりあげた奇妙な溶岩原や、緑の森が再生していく過程の中を歩きます。火山の恵み・温泉ホテルの露天風呂で疲れを癒すのもオススメですよ！

※スタート地点とゴール地点が異なりますのでご注意ください

(発着地点ともに路線バスが運転しています【大島バス:TEL 04992-2-1822】)



おすすめモデルコースの注意事項について

目安時間は休憩なしで歩き続けたときの時間です。
ゆっくり観察したい方、のんびり景色を楽しみたい方は
時間に余裕を持ってお出かけください！

※足元の悪い場所を歩きます。トレッキングシューズまたは靴底の厚い運動靴を着用しましょう(足の疲労や怪我の危険性を軽減します)

※立入禁止区域や危険な場所には入らないでください！

※山頂は日陰がありません。熱中症予防にこまめな水分・塩分補給を心がけましょう。

※山頂周辺は平地と比べて風が強く天気が急変しやすいので、十分注意しましょう。

※強風時や濃霧時のお鉢巡りや裏砂漠歩きは非常に危険です。行程の中止や引き返しなどの確に判断して行動しましょう。

伊豆大島ジオパーク山頂エリアマップ

IZUOSHIMA Summit Area MAP



伊豆大島ジオパークをもっと楽しむ！

ガイドツアーのススメ

ジオガイドは、伊豆大島ジオパークで出会える景色や体験の奥にある「ふしぎ」を楽しく読み解くお手伝いをしています！

伊豆大島ジオパーク認定ジオガイドが行うジオツアー
半日1名 5,000円(税別)から(2名様より運行)※2023年4月現在

詳しくは 伊豆大島ジオパーク公式HP へ

<https://izuoshima-geo.org/enjoy/guidetour.html>

ここはなぜ
デコボコ
してるの？

なぜ
ゴツゴツした
溶岩の上に
植物が生えて
いるの？

歩きながら探してみよう！

いくつ見つけられるかな？



① 外輪山展望台

お山にかかった
チョコレート

伊豆大島火山の噴火がつくりあげた風景を一望できる展望台です。目の前に広がる平らなくぼ地(カルデラ)の中に、江戸時代の大噴火で誕生した三原山が見えます。山肌の黒いスジは、1986年の噴火で山頂の火口からあふれ出した溶岩流の跡です。



② 江戸時代のパホイホイ溶岩

溶岩だって
シワがよる？

遊歩道を少し歩くと左側に、もこもこした溶岩の小山がいくつも見えてきます。この辺りの溶岩は、江戸時代の大噴火で流れ出したものです。ぶくくりとふくらんだおまんじゅうのような形や、何本も並んだ縄のようなふしぎな形の溶岩(パホイホイ溶岩)がたくさん見つかります！



③ 1986年噴火の溶岩流失端

ゴツゴツ溶岩

1986年11月19日、山頂火口からあふれ出した溶岩は三原山の斜面を流れ下り、それまでであった遊歩道をおおって、ここで止まりました。溶岩流の先端部の厚さは約5メートル、デコボコ・ゴツゴツした表面が特徴です。上に登って噴火当時の溶岩の流れを想像してみましょう！



④ マグマのしぶきがくっついた岩

巨大なおはき？

この巨大な岩は、1986年噴火の際、火口の中で大量のマグマのしぶきが積み重なってきた、さらに巨大なブロックの一部が崩れたものです。火口からあふれ出した溶岩流に浮かんて流れ約500メートルも運ばれて、三原山の斜面を下る手前のここで座礁しました。



⑤ お鉢巡り

わずか1時間の
パナマウォーク！



直径300～350メートル、深さ約200メートルの火口を見下ろしながら、周囲をぐるりとひと回りできる遊歩道です。火口と反対側には島を取り囲む360度の海と、富士山、伊豆半島、伊豆諸島、房総半島、三浦半島の大大パナマが望めます。



⑥ 三原山中央火口

壮大な穴は
マグマの出口！



地球内部から上がってくるマグマの出口です。1986年噴火ではマグマがこの穴を満たし、ついにはあふれ出しました。火口の壁には、過去の噴火の溶岩の溶岩が何重にも重なった層が見られます。周辺では、地下のマグマが水が温められ、白い湯気が上がっています。





7 割れ目噴火口

炎のカーテン！



噴火はいつも山頂だけで起こるわけではありません。1986年には三原山の北側斜面で“割れ目噴火”が発生しました。南東から北西方向に約1キロメートルにわたってたくさんの火口が開き、噴き上がったマグマのしぶきは高さ1500メートルまで達しました。



8 裏砂漠

黒い砂漠



噴火のたびに細かい溶岩の粒や火山灰が降り積もり、黒い砂漠をつくりました。強い風の通り道であり、植物の種や芽生えを吹き飛ばしてしまうため、黒い景観が保たれています。そのような中でも、風を少し避けられる場所から徐々に植物の再生が始まります。



9 ジオ・ロックガーデン

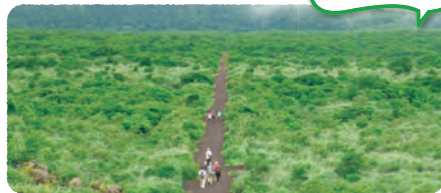
何に見えるかはあなた次第

さまざまな形の黒い岩が一面にニョキニョキと広がっています。1986年の“割れ目噴火”で降り積もったマグマのしぶきが、地表を流れる溶岩流に運ばれながら変形し、1日足らずでこの奇岩のガーデンをつくりあげました。何が見えるか、何に見えるかはあなた次第！



10 再生の一本道

黒い色の大地がやがて森に



厳しい環境に適応したパイオニア植物から命の再生が始まります。噴火によって黒い色となった地面が次第に草原となり、木が生え、森となる数百年間の物語をこの一本道でたどることができます。



いつか森になる道



こもれびトンネル

「再生の一本道」は、「いつか森になる道」と「こもれびトンネル」という2つの区間に分かれています。

11 赤ダレ

真っ赤な溪谷

近くの火口から溶岩が降り積もり、丘ができました。溶岩は高温の状態で空気に十分触れたため、酸化して赤くなりました。その後、長い年月をかけ侵食されて丘の内部が現れ、赤い溪谷が生まれました。谷の先に広がる海には伊豆諸島が望めます。



凡例



トイレ
Toilet

車両進入禁止
No Entry for Vehicles

駐車場
Parking

もしも噴火したら
とにかくここまで避難！

もしも噴火したら
とにかくここまで避難！

もしも噴火したら
とにかくここまで避難！

もしも噴火したら
とにかくここまで避難！

もしも噴火したら
とにかくここまで避難！

もしも噴火したら
とにかくここまで避難！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！

ガイドさんと
一緒に行こう！